

医療計画との整合性の確保(群馬県保健医療計画、群馬県地域医療構想)

「地域医療構想」とは、団塊の世代が75歳以上になる2025年を見据え、地域の将来的な医療ニーズの見通しを踏まえ、医療機能ごとの病床の必要量及び目指すべき医療提供体制を実現するための施策等を定めるもの。



2025年に向け、在宅医療や介護サービスの需要は、「高齢化の進展」や「地域医療構想による病床の機能分化・連携」により増加する見込みである。

- 医療提供体制の構築並びに在宅医療・介護の充実等の地域包括ケアシステムの構築が一体的に行われるよう、介護保険事業計画及び医療計画の整合性を確保することが重要である。
- 県のデータによると、新たに増加するサービス必要量のうち介護保険サービスが必要とされる需要は、平成30年度からの8年間において、前橋市では約188人と試算されている。
- 上記の介護保険サービスの受け皿としては、①介護施設等で対応を目指す部分と②在宅医療等で対応を目指す部分が考えられる。